

9月20日（日）主日礼拝レジュメ

「除かれるべきもの」 使徒の働き8章18～25節

ペテロとヨハネがサマリアの信者たちの上に手を置くと聖霊が下ったという出来事は、魔術師シモンにとっては衝撃的な出来事だったのではないか。それで18節「使徒たちのところに金を持って来て」19節「私が手を置く者がだれでも聖霊を受けられるように、その権威を私にも下さい。」と願った。間違っただけにより、間違っただけで神の賜物を手に入れようとした。

20節でペテロは、厳しくシモンのしたことを非難した。「おまえの金、おまえとともに滅びるがよい。」とは、金もシモンとともに滅びへ引き渡すという意味で、さばきとも、呪いの宣言とも取れる。ここでペテロはシモンの心を試そうとしたのではないか。シモンがここでペテロの言葉にどう反応するかを見ようとした。

21節でペテロは、「おまえは、このことに何の関係もないし、あずかることもできない。おまえの心が神の前に正しくないからだ。」と言った。シモンの心が正しくないのです、このままの状態では信仰に入っても聖霊を受けた他のサマリア人たちと同じように、神の祝福にともにあずかり、それを喜ぶことができないということ。F F ブルースという学者は、新生していない古いものが残っていたことがあらわになったと言っている。9、10節の不思議なわざを行うことで人々を驚かせることや自分が偉大な者だと話し、人々からの称賛を得ることを願うようなものが残っていたということ。

23節「苦い悪意と、不義の束縛の中にいることが、私には見えるのだ。」とペテロは言ったが、それこそがまさに信仰において欠けた部分であり、そのようなものを残したままでは、信仰の交わりに加わることを認める余地はなかったということ。

22節では、「だから、この悪事を悔い改めて、主に祈れ。もしかしたら、心に抱いた思いが赦されるかもしれない。」と言い、シモンに悔い改めを勧めたが、それに対してシモンは答えて、「あなたがたが言ったことが何一つ私の身に起こらないように、私のために主に祈ってください。」と言った。ここでも様々な議論があるが、この後シモンはどうなったのかは分からない。

信仰を持った者の中にはいろいろな人がいることは間違いない。しかし。シモンは、特別なのか。もしかすると、自分の中にもシモンのような罪の性質が残ってしまっていないだろうか、他の兄弟姉妹たちとともに主の祝福を分かち合えない罪の性質を持ったまま教会生活を続けていないか。それならば、サマリア人の信者の群れの中に魔術師シモンのような罪、教会の中にシモニーの罪が入り込んで来る危険がある。シモンのしようとしていたことを許さず、ペテロとヨハネのように、教会に罪が蔓延する前に未然にそれを防ぐために厳しい言葉で叱責することも必要。

旧約聖書を通して神の聖さのゆえに神は人が徹底的に恐れるべきお方だということを教えられる。今日のペテロの魔術師シモンの罪に対する厳しい叱責もまた決して教会の中に罪を入れることがないという使徒たちの神の聖さに対する信仰と神への恐れから出て来たことだろうと思われる。